

地域密着型サービス評価の自己評価票(2F)

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営規定。基本方針、そしてホームとしての理念である決め事十則を掲げている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全スタッフが理念を共有し、明るく元気にいつも笑顔を絶やさずにいる事を、心掛けてケアを行っている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	利用者家族には契約時、必ず説明し地域の方にも運営推進会議を通して説明している。平易な言葉で分かりやすく明文化されている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣のイベントなどへの参加や、散歩の際など積極的に声を掛け交流を行っている。	運営推進会議を通じて地域とのつながりさらに増した。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の運動会や、地元のお祭りへの参加、また、地域運営推進会議の際には老人会・地区長さんの協力を得ている。地元消防団の方にもお願いをしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	今後も、地域の高齢者の暮らしに役立つ事がないか、十分に話し合い取り組んでいきたい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	交換研修を実施しており、良い点は取り入れ、改善点は即日改善に努めている。スタッフミーティングを月1回行っており問題点の解決や対処法を検討している。緊急時にはその都度ミーティングを行っている。		外部評価を実施する意識は理解している。改善点の取り組みは直ぐに取り組む事が出来ている
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、地域役所の福祉関係者、地区長、民生委員、老人会、入居者を含む家族に参加をして頂き、運営推進会議を実施しており、交流を深めている。		話し合いの中から出た意見はサービス向上に活かしている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	小学生の職場体験の場として提供したり、施設の見学の受け入れをしている。市町村に働きかけをし交流の機会作り、質の向上に取り組んでいる。		
10	管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は、研修会などで学ぶ機会はあるが、全スタッフが十分に理解しているとは言えず、今後学ぶ機会を作り、必要に応じて活用していきたい。必要とされた利用者様が利用されている。	○	学ぶ機会を持てるようにしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に人生の先輩として敬意を払い業務に携わっている。記録により細かく状況把握出来るよう申し送りなどを活用している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際には、家族に十分納得の行く説明をした上で同意を得ている。事前に施設見学をして頂き、内容を理解して頂いている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情が出た時は、直ぐに対応し、その都度納得して頂けるように説明をしている。ご意見箱を設けている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月家族へのお便りを発行し、家族様に個々に合わせた報告をしている。健康状態に変化があった際には、電話などで連絡をし相談をしながら対応をしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情・窓口が設けてあり随時受け付け出来る。苦情が出たときは、納得の行く説明を行っている。ホームに対してのアンケートを実施しており、率直な意見を反映させている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度スタッフ同士のコミュニケーションを密にし、意見や提案事項を吸い上げ、主任・館長・運営者への報告を行い意見を反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状態や生活の流れを支援する為に勤務ローテーションを組んでいる。常に柔軟な対応が出来るように努めている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフの移動は利用者のダメージの無いように必要最小限として、代わる時は新しいスタッフに慣れて頂くよう、少しずつスキシップを取り入れ信頼関係を築いている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○	まだ、十分ではないが今後も継続して働きかけていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		直接の声を聴いて、改善出きる点は配慮して頂けている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたときには、その人に合ったあったサービスを受けられるよう努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	詳細な(身体・生活歴・性格・趣味)状況を把握し利用者の馴染みのものを使用して頂いたり、興味のあるものを話題にし雰囲気作りに配慮している。		時間はかかるが、家族と相談しながらゆっくりとなじんで頂けるように支援している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と共に生活を送り、日常生活の喜び、楽しみを共有しコミュニケーションを図っている。また利用者と職員が互いに学びあう姿勢を大切にしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事に参加して頂けるよう、連絡をしたり、何かあれば、相談・連絡・報告している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人・家族の状況を把握し、いつでもより良い関係が築けるよう連絡を密に取り、行事などに参加してもらえるようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望があれば、友人や家族等に電話をして頂いたり、お手紙を送ったり、行きたい時は一緒に外出できるよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者一人一人を把握し、職員が間に入りコミュニケーションをとっている。		世話役の方には、役割を發揮して頂けるよう場面作りをしている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	関連施設がある為、転居できるようになって居り、いつでも家族と連絡が出来る		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の話を傾聴し、希望や意向を把握し沿えるように努めている。また意思表示が困難でな方でも細かい事から判断し、その人らしい生活が送れるように支援している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	介護サマリー、情報提供書、家族の話等により、本人の幼少から現在に至るまでを、極力把握し、利用者の得意とするものを見極め、より良いサービスにつなげている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケース記録、申し送り等の活用、また、口頭により心身状態の把握に努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の要望などを取り入れ、より良い援助を行う為の介護計画書を作成している。また、定期的話し合いの場を持ち、見直し、反映させている。		家族から率直な意見・要望をきいて反映させている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に一回の見直しを行い、介護度が変わった時や状態が変化した時も実施を行っている。その際には家族や医療関係者とも話し合い計画書に反映させている。毎月担当者会議でモニタリングを実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録表に記入して、情報を共有している。また申し送り張、日誌も同時活用して、全スタッフが情報を把握し、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当事業所ではグループホーム・有料老人ホーム・介護付き賃貸住宅と三本柱での運営を行っており、利用者の身体状況に応じた対応を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方により、マジック・歌謡ショーを行って頂いている。また、地元小学校の学習の場として提供したり、行事に出向いたり、交流を深めている。地域運営推進会議を通し、民生委員・警察・消防の方々に協力を得ている。		定期的に地元の図書館を利用している。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	毎月、地域の介護支援専門連絡会議に出席、他の事業所と話し合いを行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと情報を交換したり地域密着を念頭に置き協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必ず、利用者・家族の確認した上で医療機関に受診している。医師の紹介状と連携により体制が整っている。		看護師に相談・アドバイスを受けられる

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	指示や助言をしてくれる医師を複数確保しており、いつでも連絡を取る事が出来、不明な点・対応・相談事を直ぐに聞く事が出来る。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	往診・通院にて気軽に相談し合えるようにしている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した場合、定期的に面会や担当医師から病状説明を受けており、早期退院に向けて連携を図っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについては入居時に確認をしており、終末期をむかえた時は医師・家族と連携を取り本人にとって何が良いのか、また、希望などをお聴きし、最善の方法を取れるようにしている。		終末期への見極めは難しいが、主治医と相談しながら、家族納得の上でむかえている
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	個々によって対応の仕方は多少異なるが、基本的にはその人らしい生活が送れるよう支援している。日々の記録を体調管理表に記入しながら変化時には、医師と連絡、直ぐに対応が出来るように、チームとして取り組み支援を行っている。看護師の協力も得られる。		ナースに相談・協力を得る事が出来る
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居者・家族・関係者と十分な話し合い情報交換を行い、環境を整え利用者のダメージ軽減を図る。退居後も連絡を取れる体制になっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩である事を意識し、個々に合わせた言葉使い声かけを行い、自尊心を損なわないように気遣い、尊重している。記録や個人情報は鍵付きロッカーに保管している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	普段から利用者との会話を多く持ち、信頼関係を築くと共に個人の意見を尊重し決定権を利用者本人にと努め納得して頂ける様支援している。また決定することが難しい場合には、助言しながら決定できるようにしている	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日を時間で区切らず、各入居者のペースを把握し、個人のペースに合わせている。季節の行事なども取り入れ希望に沿うようにしている	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望に応じ、移動理容室や¥1000カットをいつでも利用できる体制になっている。スタッフ希望の時は毛染め・カット・顔剃りも行っているまた、好みの服を一緒に選んだり、買物にも出かけている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜・果物・畑で採れた新鮮な物などを取り入れ、リクエストや好みの物などを献立に入れながらバランスのとれた食事を提供している嫌いな物の時は代替を出している。食材の買出しや準備なども、体調の良い時には手伝って頂いている。	栄養指導も行って頂いて居り、いつでも気軽に質問などが出来る。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	毎日お茶の時間にお出しするお茶は、個々に合わせるまではいかないが、コーヒー・紅茶、フルーツジュースなどお茶菓子に合わせてお出ししている。また一緒に手作りおやつも作ることがある。お酒は週一回、煙草は一日の本数が決まっている。それぞれが楽しみとなっている	毎週日曜に2階の利用者様と、一緒にお酒を召し上がられ楽しい時間を過ごしている。声も弾み、日曜が待ちどろしいとの事

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握しその人に合ったトイレ誘導を行っている。トイレの場所は分かりやすくなって居り、使用後は常に清潔に保たれている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いつでも、本人の希望日・時間に入浴出きるようにしている。温度も好みに合わせるようにしている		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室内の温度管理に注意し、寝具を干したり、洗濯したりと清潔に保ち、いつでも好きな時間に休んで頂いている。和室・ソファなどでもゆっくり過ごせる環境作りも行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯干し・たたみ・掃除などそれぞれ性格に合わせた役割を持ち、張り合いのある生活を送っていただいている。毎月レクレーションや季節の行事など、楽しむ事・笑える事など多く取り入れ支援している		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭を持たないが、家族と相談の上預かる場合は事務所管理としている。買物の際は見守りの中自分でお金出して支払いをして頂けるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に外に散歩やドライブに行ったり、レクや外食を通して季節感や気分転換を図っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年一回(9月)、他館合同で一泊旅行があり家族も気軽に参加でき体制になっている。		個別レクとして外食に行き、「本人の好きな物を食べて頂き気分転換を図って頂いている。まだまだ1人1人の希望に沿えるまではいかないが、今後も機会を設けて個々が充実できるように支援して行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、家族や知人にいつでも掛けたい時に掛けられ、家族からも進んで行って頂いている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問出きるように環境を整えている。家族が行事に参加できるよう機会を多く作り、また、会話を十分持つことで信頼関係を保ち居心地良く過ごして頂いている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	目配り、見守りを徹底し身体拘束のないケアをスタッフが理解している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はセンサーを用い鍵をかける事はないが、夜勤時は防犯上の為鍵をかけている。玄関はいつでもオープンにして居り、いつでも出入りが自由になっている為、目配りは常に行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフが必ずホールにいるようにし、見守りを行っている。スタッフ同士が必ず声かけをし、常にお互いの居場所や、利用者の所在確認及び様子を把握している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全スタッフが管理を周知しており、危険性を認識し、鍵付きの棚や手の届かない所へ保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	他館のアクシデントや、ユニットのヒヤリハットの情報を全スタッフが把握して共有し、再発防止に努めている。また、緊急連絡網や対策マニュアルで即座に対応できるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	スタッフは、2年に1回必ず救命救急の講習を受講している。また、対応処置マニュアルがありいつでも見れるようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年2回行い、全スタッフが緊急時の対処法や通報システムの使用法を周知している。非常時の備蓄や地域住民や地元消防団への協力も行っている。夜間想定訓練も同時に行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の状況に合わせ、家族等に説明を十分に行うと共に、抑圧感のない生活が送れるかどうかを常に考えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックを行うと共に、体調の変化時には申し送りを活用、また、口頭などでも情報を共有し即座に対応している。場合によっては主治医の指示を仰いでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全スタッフが薬の内容を理解し、指示通り服薬できるようにしている。症状の変化の際は医師と相談、速やかに薬の変更をして頂くことも有り、その都度スタッフ全員周知対応している。		薬のセットはスタッフ2人で行っており、服薬時にも2人で名前を確認している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給やセンナ茶や、植物繊維の多い食材を食事に取り入れたり適度な運動を促したりしている。また、全スタッフが便秘マニュアルを理解している。薬に頼らない生活を支援している。同時に排便チェックも必ず行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、個々に合わせた口腔ケアを行い、状況に合わせた介助を実施、清潔保持に努めている。月2回歯科往診がある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事、水分摂取量を行っている。体調不良時には、医師の指示に従い記録に残している。状況は全スタッフが把握している。	○	摂取量に関しては、明確に記録を取ってはいない。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを活用し、利用者には毎回手洗い・うがいを実施しておりスタッフはもとより、来客者にも手洗い・うがい・ウエルパス消毒をして頂ける様その都度声を掛けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	栄養指導して頂いたり、調理器具はチェック表を活用し消毒を実施している。開封時には日付けを記入早めに使用している。尚、生鮮食品を扱う場合はディスプレイを使用し直接触れないようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには、季節の花を途切れる事なく植え、気兼ねなくいつでも出入りできるように環境を整えている。草刈などもまめに行っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・ホールは常に花や・植物を飾り、ホール内には季節の行事の写真を掲示、部屋、トイレには手作りのれんを下げ居心地良く過ごせる工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを置き、和室にはマッサージチェア・冬にはコタツなどを置き、いつでも、誰でも使用し過ごせるような環境作りをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用、使い慣れた家具や生活用品を持ち込んでもらい、個人個人の居室作りをして頂いている。ベットが苦手なれない方には、床に、マットを敷き布団を使用使いやすく整えている。また、畳などの対応も行っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	一日に数回換気を行い、空調は天候や状況に応じて調節している。冬は加湿器を用い、一定の温度・室温を保てるようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、バリアフリーになっており、全体に手すりが付いている為歩行・移動がしやすいようになっている。階段には滑り止めをつけている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ・浴室は分かりやすく表示し、居室には表札を掲げている。清潔感を心がけ、誤認、錯覚・アクシデントの原因になる物は置かない		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関には草花を植え、天気の良い日には外でお茶や食事を楽しみ、敷地内には、畑を設け、利用者と共に野菜作り・収穫をして居り、楽しみの一つとなっている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の
		②利用者の2/3くらいの
		③利用者の1/3くらいの
		④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある
		②数日に1回程度ある
		③たまにある
		④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と
		②家族の2/3くらいと
		③家族の1/3くらいと
		④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

いつも、明るく元気に利用者様と、泣いたり・笑ったり・時には喧嘩もしながら、本当の家族のようにそして、自分の家の様な空間作りを心掛けています。いつも自然体で接し笑いの耐えないユニットです。